



# 製品安全データシート

## 1. 化学物質等および会社情報

製品名 : **金型洗浄剤 / MOULD CLEANER**  
 会社名 : 複合資材株式会社  
 住所 : 〒444-1223 愛知県安城市和泉町北大木1番地4  
 電話番号 : 0566-92-5151 FAX番号 : 0566-92-5153  
 緊急連絡先 : 0566-92-5151  
 推奨用途及び使用上の制限: 工業用 金型・機械部品の洗浄

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類 (製品)

#### 物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	可燃性・引火性エアゾールに該当
可燃性・引火性エアゾール	区分1
支燃性・酸化性ガス	分類できない
高压ガス	可燃性・引火性エアゾールに該当
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	区分3
急性毒性(吸入:粉じん)	分類対象外
急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分2A
呼吸器感作用	分類できない
皮膚感作用	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分2
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分1 (中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)
	区分2 (気管支、腎臓、呼吸器系)
	区分3 (気道刺激性、麻酔作用)

#### 健康に対する有害性

特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分1 (中枢神経系、抹消神経系、呼吸器、肝臓)
吸引性呼吸器有害性	区分2
水生環境急性有害性	区分2
水生環境慢性有害性	区分2

#### 環境に対する有害性



ラベル要素

絵表示又はシンボル: 炎、感嘆符、健康有害性、どくろ、環境



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 極めて可燃性・引火性の高いエアゾール  
 引火性の高い液体及び蒸気  
 飲み込むと有毒(経口)  
 吸入すると有毒  
 皮膚刺激  
 強い眼刺激  
 発がんのおそれの疑い  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害  
 気管支、腎臓、呼吸器系への障害のおそれ  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気又はめまいのおそれ  
 長期又は反復曝露による中枢神経系、抹消神経系、呼吸器、肝臓の障害  
 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ  
 水生生物に毒性  
 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

- 【安全対策】 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。  
 加圧容器:使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。  
 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
 容器を密閉しておくこと。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
 静電気放電に対する予防処置を講ずること。  
 火災を発生しない工具を使用すること。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 取り扱い後は、よく手を洗うこと。  
 スプレーを吸引しないこと。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 使用前に取扱説明書を入手すること。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 保護手袋および保護眼鏡/保護面/衣類を着用すること。  
 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- 【救急処置】 皮膚(または毛)にかかった場合は:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。  
 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
 吸入した場合:(呼吸が困難な場合には、被災者を)空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に取り外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。  
 取り扱い後は、よく手を洗うこと。  
 漏出物を回収すること。  
 人体に異常を感じたら、医師の診断/手当てを受けること。(皮膚/曝露 他)  
 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 【保管】 日光から遮断し、50°Cを超える温度に曝露しないこと。  
 容器を密閉して涼しい/換気の良いところで施錠して保管すること。
- 【廃棄】 内容物/容器を都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。



### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名 : 洗浄剤 (エアゾール)

成分	含有量 (wt%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
ジクロロメタン	56.3	CH <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub>	(2)-36	75-09-2
キシレン	4.23	C <sub>6</sub> H <sub>4</sub> (CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	(3)-3	1330-20-7
メチルエチルケトン	1~5	CH <sub>3</sub> COC <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	(2)-542	78-93-3
酢酸 n-ブチル	1~5	CH <sub>3</sub> CO <sub>2</sub> C <sub>4</sub> H <sub>9</sub>	(2)-731	123-86-4
LPG (ブタン)	30~35 (15~20)	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> , C <sub>4</sub> H <sub>10</sub>	(2)-3 (2)-4	74-98-6 106-97-8 75-28-5

※ 本品には、PFOA 及び PFOS は、含まれておりません。 ※ 本品には、シリコーンは、含まれておりません。

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
皮膚を速やかに洗浄すること。多量の水と石けんで洗うこと。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に取り外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : 吸入すると、めまい、し眠、頭痛、吐き気。  
皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤。  
眼に接触すると、発赤、痛み。  
飲み込むと、灼熱感、腹痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気。
- 応急措置をする者の保護 : 皮膚への付着や、吸入等を回避するために適切な保護具を着用すること。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤: 小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤  
大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤: 棒状注水
- 火災時の特定危険有害性: 加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火炎によって刺激性、毒性、腐食性のガスを発生するおそれがある。  
引火性液体及び蒸気。  
極めて燃えやすい。熱、火花、火炎で容易に発火する。  
屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
- 特定の消火方法 : 散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。  
危険でなければ、火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所周辺に関係者以外の立入を禁止する。  
消火作業は風上から行う。  
初期の火災には大量の水噴霧、粉末、炭酸ガス、泡(アルコールム)を用いる。  
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 周辺火災の場合 : 周囲の設備などに散水して冷却する。  
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護衣(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。  
有害ガスを発生する危険性があるので、作業者は自給式呼吸器等の各種保護具等を完全に着用して作業する。



## 6. 漏洩時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業者は適切な保護衣を着用し、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
風下の人を避難させ、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。  
作業の際は、漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
風上にとどまる。低地から離れる。  
密閉された場所に入る前に換気する。  
多量の場合、人を安全に退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。  
流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。  
漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。  
環境中に放出してはならない。
- 除去方法(回収、中和) : 危険なくできるときは漏洩を止める。  
少量の場合は、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ空容器に回収した後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。  
大量の場合は、土砂等(不燃物)で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などでドラム等の空容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 全ての発火源を速やかに取り除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 取扱いは、換気の良い場所で行う。  
適切な局所排気装置、保護具を使用する。
- 安全取扱い注意事項 : 使用前に全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。  
取扱場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類は静電気対策を講じる。  
局所排気又は全体換気設備のある場所で取り扱うこと。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしないこと。  
接触、吸引又は飲み込まないこと。蒸気、ミスト、スプレーを吸引しないこと。  
眼に入れないこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
環境への放出を避けること。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。

### 保管

- 適切な保管条件 : 保管場所は火気厳禁とする。  
容器は直射日光を避け、通風の良い冷暗所に保管する。  
保管場所の床は、床面に水が浸入したり、浸透しない構造とする。
- 混載禁止物質 : 酸化剤、強アルカリ
- 安全な容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. 曝露防止及び保護措置

成分		ジクロロメタン	キシレン	メチルエチルケトン	酢酸ブチル	プロパン	ブタン
管理濃度		50ppm	50ppm	200ppm	150ppm	—	—
許容濃度	日本産業衛生学会	50ppm、 170mg/m <sup>3</sup> (2005年版)	50ppm、 217mg/m <sup>3</sup> (2005年版)	200ppm、 590mg/m <sup>3</sup> (2005年版)	100ppm、 475mg/m <sup>3</sup> (2005年版)	—	500ppm (2005年版)
	ACGIH TLV-TWA	50ppm (2005年版)	100ppm (2005年版)	200ppm (2005年版)	150ppm (2005年版)	1000ppm (2005年版)	800ppm (2005年版)

- 設備対策 : 室内での取扱いの場合は、発生源の密閉又は局所排気装置を設置する。  
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示しておく。

### 保護具

- 呼吸用の保護具 : 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器



手の保護具 : 耐油性の保護手袋  
 眼の保護具 : 保護眼鏡、防災面  
 皮膚及び身体の保護具: 耐油性の保護長靴、保護服、保護前掛け

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

形状、色 : 原液 - 無色透明液体 / 噴射剤(LPG) - 無色透明気体(大気圧下)  
 臭い : 原液 - ジクロロメタンの特異臭及びシンナーの混合臭 / 噴射剤(LPG) - 無臭  
 pH : 該当しない。

### 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

	ジクロロメタン	キシレン	メチルエチルケトン	酢酸ブチル	LPG
沸点(°C)	40	138 - 144	80	126	-42.1 - -0.5
融点(°C)	-95.1	-25 - 13	-86	-77	-187.7 - -138.4
引火点(°C)	なし	27 - 32	-9	22	-104.4 - -73.8
発火点(°C)	556	463 - 527	404	420	405 - 550

### 爆発特性

爆発限界(vol%)	12-25	0.9-6.7	1.8-11.55	1.2-7.6	1.6-10
蒸気圧	47.4kPa (20°C)	0.7-0.9kPa (20°C)	105kPa (20°C)	1.2kPa (20°C)	0.45-0.60MPa (40°C)
蒸気密度 (空気=1)	2.93	3.66	2.41	4.0	1.895-2.538 (1atm, 15.6°C)
比重(密度)	1.325 (20/4°C)	0.88 (20°C)	0.805 (20/4°C)	0.88 (20/20°C)	液比重0.507-0.555 (15°C)

### 溶解性

水に対する溶解性	1.3g/100ml (20°C)	162-198mg/L (25°C)	29g/100ml (20°C)	0.7g/100ml (20°C)	0.061g/L(20°C) (ノルマルブタン)
その他	エーテルなどの有機溶剤に可溶。				有機溶剤に可溶。

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の取り扱い条件においては安定。  
 熱と湿気に不安定。加熱や燃焼により分解し、有毒ガス(塩化ビニル、塩化水素、ホスゲン、一酸化炭素)を生成する。(ジクロロメタン)  
 強酸化剤と接触すると発火、爆発する。酸化剤、アルミニウムと反応して水素ガスを発生する。(キシレン)  
 高温の表面、火花、裸火により発火。(LPG)

可燃性 : 引火性が極めて強い。(LPG)

反応性 : 酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。

避けるべき条件 : 高温への曝露、強酸化剤、強塩基、アルカリ金属、金属粉末との接触(ジクロロメタン)  
 加熱(キシレン)

混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、アルカリ金属、金属粉末との接触(ジクロロメタン)  
 酸化剤、アルミニウム(キシレン)

危険有害な分解生成物 : 塩化水素、ホスゲン等の有害ガス(ジクロロメタン)  
 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。(キシレン)

## 11. 有害性情報

急性毒性 :

成分	ジクロロメタン	キシレン	メチルエチルケトン	酢酸ブチル	プロパン	ブタン
急性毒性 経口 LD50	2100mg/kg (ラット)	3500mg/kg (ラット)	5520mg/kg (ラット)	14.13g/kg (ラット)	—	—
急性毒性 経皮 LD50	情報なし	>4350mg/kg (ウサギ)	>5000mg/kg (ウサギ)	17600mg/kg (ウサギ)	—	—
急性毒性 吸入(蒸気)	LC <sub>50</sub> 64mg/L (18000ppm) (ラット)	LC <sub>50</sub> 29.08mg/L/4H (ラット)	LC <sub>50</sub> 11700ppm/4H (ラット)	LC <sub>50</sub> 2000ppm(9.5mg/L)(ラット)	LC <sub>50</sub> >55000ppm/2H (モルモット)	LC <sub>50</sub> 277374ppm/4H (ラット)



- 皮膚腐食性・刺激性 : ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果「中等度の刺激がみられたが、皮膚に対する腐食性はなかった」との報告がある。(区分2/ジクロロメタン)  
ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果「中等度の刺激性」との報告がある。(区分2/キシレン)  
皮膚刺激(区分2/メチルエチルケトン)、軽度の皮膚刺激(区分3/酢酸ブチル)
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : ウサギを用いた眼刺激性試験の結果「眼瞼の中等度ないし重度の炎症がみられた」との報告がある。ヒトに対する事例では「軽度の刺激あり」との報告がある。(区分2A/ジクロロメタン)  
ウサギを用いた眼刺激性試験の結果「中等度の刺激性」との報告がある。(区分2A/キシレン)  
眼刺激(区分2B/メチルエチルケトン、酢酸ブチル)
- 呼吸器感作性 : 情報なし(ジクロロメタン、キシレン、メチルエチルケトン、酢酸ブチル)
- 皮膚感作用: 情報なし(ジクロロメタン、キシレン、メチルエチルケトン)、皮膚感作性は認められないとしている。(酢酸ブチル)
- 生殖細胞変異原性 : 経世代変異原性試験で陰性、体細胞 in vivo 変異原性試験(小核試験、染色体異常試験)で陰性等の報告がある。(ジクロロメタン)  
ヒト経世代疫学で陰性、経世代変異原性試験なし。(区分外/キシレン)  
哺乳類赤血球を用いる小核試験で陰性の結果がある。(メチルエチルケトン)、情報なし(酢酸ブチル)
- 発がん性 : IARC グループ 2B ヒトに対して発がん性を示す可能性がある。  
NTP R ヒト発がん性があると合理的に予測される物質。  
EPA B2 動物での十分な証拠に基づいて、おそらくヒト発がん性物質  
ACGIH A3 動物に対して発がん性が確認された物質であるが、ヒトへの関連は不明  
(区分2/ジクロロメタン)  
ACGIH グループ A4 IARC でグループ3に分類されている。(区分外/キシレン)  
EPA で I に分類されている。(メチルエチルケトン)、情報なし(酢酸ブチル)
- 生殖毒性 : 確定し得る情報なし(ジクロロメタン)  
マウスの発生毒性試験で親動物に一般毒性がみられない用量で、胎児に体重減少、水頭症がみられている。(区分1B/キシレン)  
最小限な影響である。(メチルエチルケトン)
- 特定標的臓器(単回曝露) : ヒトについては中枢神経系、麻酔作用及び肺疾患の記述がある。実験動物においては気管支、中枢神経及び肺疾患の記述がある。(区分1、3/ジクロロメタン)  
呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓の障害(区分1/キシレン)  
中枢神経系の障害、腎臓の障害のおそれ、呼吸器への刺激のおそれ(区分1-3/メチルエチルケトン)  
中枢神経の障害、肺の障害のおそれ、呼吸器の刺激のおそれ(区分1-3/酢酸ブチル)
- 特定標的臓器(反復曝露) : ヒトについては中枢神経系に関する記述がある。実験動物では、肝臓障害に関する記述がある。(区分1/ジクロロメタン)  
長期又は反復曝露による呼吸器、神経系の障害(区分1/キシレン)  
長期又は反復曝露による中枢神経系、抹消神経系の障害(区分1/メチルエチルケトン)  
情報なし(酢酸ブチル)
- 吸引性呼吸器有害性 : 情報なし(ジクロロメタン)、飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ(区分2/キシレン、メチルエチルケトン)  
20°Cの動粘性率は0.84mm<sup>2</sup>/s、化学性肺炎の動物データがないため分類できない。(酢酸ブチル)

## 12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 魚類(ファットヘッドミノー) LC<sub>50</sub> 5.2mg/L/96H (区分2/ジクロロメタン)  
魚類(ニジマス) LC<sub>50</sub> 3.3mg/L/96H (区分2/キシレン)  
魚類(ヒメダカ) LC<sub>50</sub> >100mg/L/96H (メチルエチルケトン)  
甲殻類(オオミジンコ) LC<sub>50</sub> 32000µg/L/48H (区分3/酢酸ブチル)
- 水生環境慢性有害性 : 急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの、急速分解性がない。(区分2/ジクロロメタン)  
急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いと推定されるものの急速分解性がない。(区分2/キシレン)  
難水溶性でなく、急性毒性が低い(メチルエチルケトン)  
急速分解性があり、かつ生物蓄積性が低いとされる。(区分外/酢酸ブチル)

## 13. 廃棄上の注意

廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をし、以下の分類毎に処理委託する。

- 内容物(ガス成分以外): 特別管理産業廃棄物/特定有害廃棄物(廃油(ジクロロメタン廃油))  
使用済みスプレー容器(内容物及び装着品以外): 産業廃棄物(金属くず)  
キャップ、ボタン、樹脂ノズル(装着品): 産業廃棄物(廃プラスチック)

容器、本製品の成分を洗浄した廃液等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去して後に処分する。



## 14. 輸送上の注意

陸上	: 高圧ガス保安法の規定に従う。
海上	: 危険物船舶運送及び貯蔵規則に定めるところに従う。
航空	: 航空法に定めるところに従う。
国連分類	: クラス 2.1 (引火性高圧ガス)
国連番号	: 1950 (エアゾール)
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み、移動、転倒、衝撃、摩擦などを生じないようにする。 鋼材部分と直接接触しないようにする。 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

高圧ガス保安法:	適用除外項目対象(エアゾール液化ガス)
消防法:	非該当
労働安全衛生法:	施行令 別表第1 危険物(可燃性のガス) 法第57条 施行令 第18条(名称等を表示すべき有害物): ジクロロメタン(第14の7号)、キシレン(第7の2号)、メチルエチルケトン(第36の3号)、 酢酸ブチル(第9の9号) 法第57条の2関係 施行令第18条の2関係 施行令別表第9 (名称等を通知すべき有害物): ジクロロメタン(第257号)、キシレン(第136号)、メチルエチルケトン(第570号)、 酢酸ブチル(第181号)、ブタン(第482号)
有機溶剤中毒予防規則:	第2種有機溶剤(ジクロロメタン(第29号)、キシレン(第11号)、メチルエチルケトン(第44号)、 酢酸ノルマルブチル(第19号))
化管法(PRTR法):	第一種指定化学物質:ジクロロメタン(第186号)、キシレン(第80号)
化審法	法第2条第5条:第2種監視化学物質(ジクロロメタン)
悪臭防止法:	施行令第1条(特定悪臭物質):キシレン
オゾン層保護法:	法第2条第1項関係 施行令第1条関係 別表(特定物質):該当せず
危険物船舶運送及び貯蔵規則:	第3条 危険物:高圧ガス
船舶による危険物の運送基準等を定める告示:	別表第2 液化ガス エアゾール 別表第8 エアゾール(1個の容積が1000cm <sup>3</sup> 以下のもの)
航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示:	別表第2 液化ガス 引火性エアゾール
水質汚濁防止法:	施行令第2条(排水基準を定める省令 第1条) 有害物質(ジクロロメタン)
土壌汚染対策法:	法第2条第1項 施行令第1条 特定有害物質(ジクロロメタン)
注) PRTR法	特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善に関する法律(PRTR法/化学物質管理 促進法)平成20年11月21日公布 政令改正対応
オゾン層保護法	特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律

## 16. その他の情報

引用文献:	1) 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)GHS分類表 2) 労働衛生情報センター発行 製品安全データシート
-------	---

ここに記載する情報は、弊社及び種々の技術出版物にあるデータに従ったものです。  
安全な取り扱いを決定する際に、この情報を採用するか否かは、使用者がその責任においてお決め下さい。